



皆様には、平素より格別のご愛顧ご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

本年もここに小樽信用金庫の経営内容や事業活動をより一層ご理解いただくために、ディスクロージャー誌を作成いたしましたので、ご高覧いただければ幸いに存じます。

日本経済は、家計の節約志向が根強く個人消費が足踏み状態を脱し切れていないとはいえ、設備投資が回復に転じ、保護主義的な政策を掲げるアメリカのトランプ政権の政策運営に対する不透明感やイギリスのEU離脱の影響、地政学的リスクの存在等懸念材料はあるものの、海外景気の持ち直しを背景に輸出が上向くなど明るい材料が見えます。

北海道経済にあっては、輸出は減少しているものの、公共投資が緩やかに増加し、個人消費も雇用・所得環境が着実に改善していることを背景に上向いてきていることから、緩やかに回復しています。

平成29年度は、輸出の回復と設備投資に続いて個人消費が上向くことで徐々に回復のテンポを高めていくものと期待されます。

このような環境のなかで、当金庫は地域との共存共栄を基本方針に、地域・会員の皆様からの信頼にお応えするため、適切なリスク管理・法令等遵守態勢の強化とともに収益基盤の強化・向上に努力してまいりました。

業績につきましては、総預金が前期比8,154百万円、6.14%増加し、総貸出金は個人向け貸出と中小企業向け貸出が共に増加して、前期比5,023百万円、7.49%増加いたしました。収益は、資産の健全性を図るために厳しい自己査定を実施し貸出金償却を行った結果、本業の利益を表す業務純益が318,008千円、当期純利益は274,186千円の計上となりました。

当金庫は、去る6月15日の通常総代会におきまして、当金庫が札幌信用金庫及び北海信用金庫と対等合併し、存続金庫となる札幌信用金庫に一切の権利義務及び財産を引き継ぐことを決議いたしました。今後北海道財務局長の認可を得て、平成30年1月1日を期して合併する予定でございます。今後とも皆様から信頼され支持される金融機関として、地域経済活性化と地方創生に大きな貢献を果たしていくために、合併に向けた準備を着実に進めるとともに、引き続き地域の皆様の繁栄と発展のため努力してまいりますので、格別のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成29年7月



理事長  
佐林史明